

2022年度ブロック学習交流集会の報告

北海道・東北ブロック学習交流集会

2022/9/10~11
(青森県青森市)

昨年度は新型コロナウイルスの感染が拡大しやむなく延期としましたが、今年度は1年越しに開催することができました。北海道・東北ブロックの仲間たちが、青森県青森市にある教育会館に組織の違いを超え、3組織7名が集いました。開催にあたりご尽力頂いた青森高教組のみなさまに感謝申し上げます。

初日はねぶた師の立田龍宝さんから「ねぶたに魅せられて～ねぶた師の一年～」と題した講演がありました。小学生の頃から、ねぶた祭りに向けて製作をおこなう「ねぶた小屋」に通っては、製作過程を見ていた立田さんは、中学生の時に今のお師匠さんに弟子入りを認められ、製作に携わることとなりました。ひょんなことから工業高校の教員になった立田さんは、生徒に進路指導をする中「夢



を果たしていない自分は本当にこのままで良いのか」と葛藤し始めます。東日本大震災後、岩手県大船渡市へお師匠さんたちとねぶたを運び、復興支援をした際に、現地の方々から涙ながらに感謝の気持ちを伝えられたことがきっかけで、ねぶた師になる決心を固めたそうです。これまでに製作したねぶたに関わ

るエピソードも赤裸々に語って頂き、参加者一同、立田さんのものづくり魂を感じたことは言うまでもありません。

2日目は各組織からの報告・情報交換をおこないました。青森では県教委交渉で臨時実習教員の被服貸与や赴任旅費支給を勝ち取ることができたことや、宮城では県教委交渉で実習室にクーラー設置を要望したところ、反応が良かったことなどが報告されました。北海道では全教実教部NEWS号外を活用した道教委交渉や、定年延長にむけての署名のとりくみなどが報告され、思いや考えを声にしてあげることや、行動を起こすことの重要性



を再確認することができました。また各教育委員会は近隣の道県の規定や動向も参考にするため、このブロックでの統一した見解を持つことが大事であることを痛感しました。この交流集会の重要性を改めて感じながら、来年度北海道で再会することを約束し、閉会しました。

昨年度は新型コロナウイルスの感染が拡大し、やむなくオンラインの開催となりましたが、今年度は現地とオンライン併用による開催でした。北陸・中部・東海ブロックの仲間たちが、愛知県教育会館に組織の違いを超え、7組織36名（オンライン参加4名）が集いました。

当日は、名高教の安藤部長の開会宣言、加藤執行委員長の挨拶があり、自己紹介と各組織での活動の交渉や成果などを聞くことが出来ました。名高教実習教員部の組合員で会場の参加者の内23名の参加、名高教実習教員部の組織力の強さを感じられました。福井高教組からは7年間新規採用がなかったが2年前から採用が始まったといううれしい報告がありました。



昼食後、全体会①では『実験実習中の「ヒヤリハット」と安全管理について』全体で意見交換をおこないました。各教科担当から様々なヒヤリハットや事故の事例が出てきました。理科の場合、実験中に硝酸を浴びてしまう事故があったが、適切な対処により大事に至らなかった事例が報告されました。そして、今年5月に愛知県内の工科高校で生徒が実習中の事故で大けがを負い、数日後死亡した事故について説明がありました。様々な事例を聴き、危険を伴う実習は単独でおこなわず、複数でおこなうこと、教諭にはしっかりと見てもらうことが事故防止には必要だと思いました。その観点から中高一貫校では高校のみに実習教員が配置されているが、中学校でも必要なのではないかという意見も出ました。

全体会②では「実験実習におけるICT活用事例と実験・実習の役割と実習教員の役割」を話し合いました。岐阜県ではタブレットの全員配布、課題研究などに利用、農場全体でも利用可となったこと、愛知県では他校へ移動時も同じタブレットが利用できるようになったことが報告されました。他にも、タブレット端末をどこでも利用できるように、先生が協力・工夫をしてネット環境を整えたこと、実験・実習に興味を持ってもらうために実習アプリの作成、レポートの課題の提出に使用しているなど、様々な事例など聴くことができました。あっという間に終了時間となってしまふ、とても実のある交流集会となりました。



閉会行事となり閉会の挨拶、次年度中部ブロック交流集会開催地の愛高教実教部の吉田書記長にブロック旗が引き継がれ、全体写真撮影後、閉会宣言となりました。終了後、各組織の代表者が集まり、全教常任委員選出、2月におこなわれる総会時の役員について説明があり、中部ブロックの今後の輪番については、長野高教組の片桐部長に北陸・中部・東海ブロックの交流集会のまとめ役をお願いすることとなり、本日の交流集会が無事に終了しました。

最後に交流集会の会場であった愛知県教育会館は7階の立派な建物で同じフロア内に、愛高教と名高教があるので、親組は違うものの連携がとりやすいうらやましい環境でした。来年度の北陸・中部・東海ブロック交流会をととても楽しみに、名古屋市を後にしました。

京都市キャンパスプラザにおいて5組織 14名が集まり開催しました。
滋賀の特別支援学校の先生からのレポート1本と各府県からの現状報告や悩みについて、報告があり討論をおこないました。

大阪では、再開された採用試験の様子や大阪市立高校が大阪府に移管されたこと、学校での様子や「総括実習助手」の試験の合格率が低いなど、これまでと様子が違う内容が報告されました。兵庫からは「実習助手」の新規採用が再開されましたが、その業務内容にICT関連の業務を担当することが入っており、採用後ICT関連の業務を「実習助手」にさせようとする動きがあること、京都からは実習教員の要求が全体の物にならず、教育委員会に要求を届ける事が難しい事や京都独自の制度から職業科の先生が実習教員部に入ってもらえず運動が広げられない悩みが報告されました。また、和歌山からは実習費の執行について、和歌山ではすべて入札となり、物品の購入に時間がかかってしまうので困っているという報告があり、それに対して大阪では少額なら現金で購入が可能であること、滋賀では随意契約でおこなっているなど各県の情報を共有することができました。



滋賀からは特別支援学校（県立聾話学校）での実践と支援学校での教諭と同じように仕事をしている「実習助手」の現状が報告されました。また、再開された新規採用の内容には各府県それぞれに障害者枠や配置などの問題がある内容が明らかになりました。また給料や待遇についても府県ごとに違いがある事がわかりました。部活の単独引率は文部科学省の回答により教育委員会も前向きな動きがあること、定年延長制導入による職名や給料については、どの府県も現状維持となっているようです。



最後に、来年度の常任委員と定期総会の役員の確認をし、来年の集会を滋賀でおこなうことを確認して閉会としました。

参加された方、全員が発言し思いを分かち合い、実りのある交流することができました。



関東・甲越ブロック集会は、埼玉教育会館を基地局として現地とオンライン併用で開催しました。埼玉高、群馬高、横浜高、茨城高から参加し、埼玉高の小沢執行委員長、そして全教実習教員部常任委員会から関東・甲越ブロック担当の魚住、横瀬が参加しました。

会議の冒頭で、元日高教実習教員部長（埼玉高）の山田竹志先生を偲び、日高教当時一緒に活動され現在退職されている2名の方をまじえ、実習教員運動の功績、思い出を交流しました。山田先生のご冥福をお祈り申し上げます。

今回の関東・甲越ブロック集会では、障害児学校で働く実習教員の現状を切り口として、参加者が今置かれている立場からの意見交換をおこないながら、学習交流となりました。

障害児学校では、肢体不自由・病弱・知的障害・視覚障害・聴覚障害などの障害種があり、実習教員を含め教員も現場で専門性を培っていかねばならないが、人事異動では障害種に関係のない異動になってしてしまうことが報告されました。その他に、1つの作業学習を専門に指導する学校や、6つ程度の作業学習の準備と後片付けをしている学校など、学校裁量により

作業学習の関わり方も学校によって違いがあること、農業や陶芸、家庭、パン作りなどの作業学習があるが、専門性が保障されていないこと、登下校時の支援に違いがあり実習教員も関わっているが、関わり方が学校によって違うこと、そもそも職務があいまいであり、担任と同じような仕事をしているのに、

免許がないことで給料が安く抑えられている現状にあること、採用試験も、高校と特別支援学校を分けて採用試験を実施している県と、校種を分けずに採用試験を実施している県もあることなど、さまざまな現状を交流しました。

高校では、臨時の実習教員が増えていること、農業や工業で専門以外の分野に異動があるなど専門性の問題が起きていること、ICT活用が実験・実習に置き換えられること、ICT管理が実習教員の仕事になってしまうこと、実際にICT管理の業務が増えていることなど、高校での現状についても交流しました。

妊娠による勤務軽減が実習教員へも拡大していることが話題となり、埼玉、山口、長野などでは、実習教員の妊娠が判明すると、非常勤職員が配置され、妊娠している実習教員の職務が軽減されていることが報告されました。

3時間弱という時間でしたが、実習教員の仕事に関する問題の根本は、校種に関わらず同じであることが明らかになった集会でした。



埼玉県教委との交渉



昨年度は岡山県主催のオンライン開催でしたが、今年度は参加型で3年ぶりに開催することができました。各県から佐賀県吉野ヶ里に5県28名がつどい大盛況のうちに終わりました。

初日は各県の組織状況と諸問題へのとりくみについて、近年の県教委交渉成果等や活動領域の拡大により発生している新しい問題、それに対するとりくみなどについて報告があり、その後質疑応答をおこない、全教実習教員部の魚住部長が全体のまとめをして終わりました。



中国・四国・九州ブロックの組織率が高く、それによるつながりが強くなっているブロックであると、改めて感じました。

また、日頃よりいろいろな自分たちの立場等の実状について、常々「これはおかしいのではないか？」と問題意識を持ち県交渉に臨んでいる現状を聴き、私たち実習教員部はこれからも全国の繋がりを大切にして更に頑張らなければいけないと思いました。

最後に魚住部長より、実教部の最終的な問題のポイントである定数法について話がありました。定数法についてはもう少し研究が必要だが「制度改革」を訴えてから20年が経とうとする中、働き方改革導入など、教育・職場環境が大きく変わっているため、今後改めて検討が必要で、現場の声をしっかりと聴き、実態に即して訴えていくことが必要とまとめられました。その他、採用問題については私たちの職種だけが障害者枠の採用があり、平等に採用するのであればどの職種にも枠があってもいいのではないかなどのお話もありました。現在特別支援学校に勤務している部長は、「やれる仕事はなんでもやる」と頑張っている様子を聴き、参加者は元気をもらいました。

二日目は、吉野ヶ里歴史公園を見学しました。吉野ヶ里遺跡は福岡ドーム6個分の広さを持つ弥生時代の代表的な遺跡です。専門のガイドから吉野ヶ里遺跡の発見された経緯から弥生時代の全ての時期の遺構・遺物などの説明を聴きながら当時の暮らしを学びました。歴史公園はとてもキレイに整備されており、国内だけではなく海外からの観光客も多く訪れているそうです。久しぶりに会った仲間との会話も弾み、お互いの情報交換もおこない充実した2日間でした。主催して下さった佐高教組の皆さま大変お世話になりました。来年度は長崎で夏に開催を予定しております。たくさんの参加をお待ちしております。



各道府県の実教部ニュースの交流について

各道府県の組織で作成されている実教部ニュースを交流していこうと思います。

ニュースを発行された時には、ぜひ全教実教部へも送付してください。



(メール : jikkyo@educas.jp)